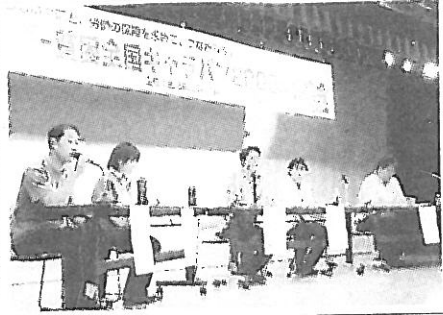


貧困と格差考えよう

全 国
キャラバン さいたままで出発式

急速に拡大している格差と



格差問題や生活保護など現状の問題を指摘するパネリストたち
13日午後、さいたま市浦和区の浦和コロン

貧困問題を考えようと、「反貧困全国キャラバン」の出發集会在十三日、さいたま市で開かれた。キャラバンは全国各地でシンポジウムや相談会を開き、十月十九日に都内の明治公園にゴールする。

キャラバンは「ワーキングプア」問題に取り組み弁護士や労働組合、NPO法人などによる「生活保護問題対策全国会議」が主催。三郷市で生活保護の申請を拒絶される事例が発生した埼玉と、生活保護を打ち切られて餓死する事

件が起きた北九州市からの東西二ルートで全国を回る。

出發集会では、非正規雇用やホームレス、シングルマザーなどの実状を当事者たちが報告した。

十三年間、日雇い派遣されてきた男性は「違法労働もあるのに、異議を唱えるだけで解雇され、生活は一気に追い詰められる。心身が病み、秋葉原事件の犯人の気持ちも分かる気がする」と打ち明けた。

十年間ネットカフェ生活をしていた男性は「家がないと休めないだけでなく、健康保険にも入れず、携帯電話も契約できない。携帯がないと派遣の仕事もない。同じ境遇の

人はどんどん増えている」と話した。

パネルディスカッションでは、ホームレスを支援するNPO法人「もやい」の湯浅誠氏や「ほつとポット」の藤田

孝典氏、首都圏青年ユニオンの河添誠氏が現場からの提言を行った。

湯浅氏は「日本の自殺率は高く、正社員も非正規社員も追い詰められている」と指摘。藤田氏は「最低限度の生活を送るために生活保護制度をつかりなければならぬ」。

河添氏は「企業が人をモノのように扱っている。登録型派遣をやめさせないといけない。長時間労働にもメスを入れる必要がある」と述べた。

(高橋信彦)

埼玉新聞

2008. 7. 15 (火)

格差是正訴えキャラバン

弁護士ら
全国行脚

全国の弁護士と司法書士、市民グループらの有志が格差社会の是正を訴える「反貧困全国キャラバン2008」がさいたま市を出発した。

生活保護費の不当な打ち切りや非正規雇用、ホームレス、シングルマザーといった問題を行政や市民に考えてもらおうと企画された。キャラバンは、各地で集会や街頭活動をしたり、福祉事務所の業

務が適正に行われているかをチェックする。

一行は3カ月かけて東北、北海道、甲信越を行脚する。12日に北九州市を出発した西日本ルート組とともに10月19日に東京・明治公園のゴールを目指す。

13日、JR浦和駅前



のコロンホールで出発式があり、約1000人で県庁まで行進した。写真：浅野翔太郎

毎日新聞

2008年7月16日

埼玉版(25面)